お金とAI（キャッシュレスと不正利用の見つけ方）

カード会社は、どのようにして不正な使われ方を見つけるのだろう

支払いの流れ

使う人
カード・スマートフォンで払う

→

お店
店・ネットのお店

→

カード会社
支払いを認め、記録する

カード会社の中：ふだんとちがう使われ方を見つける

過去の取引の記録（例）

夕方	近所のスーパー	3,200円
昼	本屋	1,500円
夕方	近所のスーパー	2,800円
夜	ドラッグストア	1,900円

→ AI
AIなどが
くらべる

→

今回の取引（例）

- 深夜
- はじめてのネットのお店
- 高い品物を、続けて3回

→ ふだんとちがう

→

確かめる

利用を一時止める
本人に確認する
不正なら、カードを
使えなくする

使う人ができること

- ✔ 利用明細をよく確かめる
- ✔ 身に覚えのない請求は、すぐカード会社に連絡する
- ✔ メールやSMSで、カード番号を入力しない
- ✔ 利用の通知や本人認証を設定する
- ✔ 確認の連絡は、公式の窓口に自分で問い合わせる

クレジットカードの
不正利用の被害額（2024年）

555.0億円

過去最多。そのほとんど（92.5%）が
インターネットでの番号の盗用

（日本クレジット協会）

※ 取引の例は架空。しくみは模式で、カード会社によって違う。AIなどの技術を使った金融サービスはフィンテックとよばれる。